

朝鮮語の主題マーカ―

キム ソンミ
金 善美（同志社大学）
E-mail: kimsunmijp@ybb.ne.jp

1. 本発表の目的

朝鮮語の主題マーカ―について、日本語の主題マーカ―との比較・対照を通じて両者の共通点と相違点を明確にする。本研究の考察において、朝鮮語の主題マーカ―について知られている諸特徴を整理した結果、多くの点で日本語の主題マーカ―との共通点が存在することがわかった。一方、相違点については両者のもっとも異なる特徴について先行研究の成果を紹介しつつより具体的な分析を試みる。

2. 朝鮮語と日本語の主題マーカ―の共通点

1) 朝鮮語において主題は日本語の「は」と同様、「은/는(un/nun)¹」という特別な形態（主題マーカ―）によって表示される。

- (1) 진돗개는 한국의 대표적인 명견이다.
cintoskay-nun hankwuk-uy tayphyocek-in myengkyen-ita².
珍島犬-は 韓国-の 代表的-な 名犬-である

2) 以下の7) と関係があることだが、朝鮮語の主題マーカ―の「은/는(un/nun)」は、談話の中に既に導入されていて話し手と聞き手の両者に知られている旧情報に言及する際、使わ

¹ 「은(un)」は子音体言の後に、「는(nun)」は母音体言の後に付く形式である。

例) 한국은 인구가 많다. / 나는 사장이다.
hankuk-un inkwu-ka manhta. na-nun sacang-ita.
韓国-は 人口-が 多い 私-は 社長-である

² 本稿での朝鮮語のローマ字表記は、Samuel E. MartinによるYale式(The Yale Romanization System)に従っている。なお本稿では、朝鮮語の例文に日本語のグロス(gloss、逐語訳)を付けている。ただし、グロスの情報の細かさの面では、形態素の切れ目ではなく意味が通じる程度のグループ単位ごとに付けることにする。

れる。朝鮮語の主題においても、久野(1973)が日本語の主題について説明していることと同様に、主題になる名詞句は文脈指示(anaphoric)的な名詞句である。一方、談話に初めて導入する新情報は主語の場合、主格の「이/가(i/ka)」を使うが、これは日本語において「が」が新情報を表すのと同じ役割である。

(2) 개가 달려왔다. 개는 신문을 입에 물고 있었다.
 kay-ka tallyewa-ssta. kay-nun sinmwun-ul ip-ey mwulko issessta.
 犬-が 走ってき-た 犬-は 新聞-を 口-に 銜えて いた

3) 朝鮮語において主題も日本語と同じく、頻繁に代名詞に置き換えられたり省略されたりする。

(3) 민수는 학생이다. / 그는 학생이다. / 학생이다.
 minswu-nun haksayng-ita. / ku-nun haksayng-ita. / haksayng-ita.
 ミンス-は 学生-である 彼-は 学生-である 学生-である

4) 朝鮮語の主題マーカーは文頭に出現し、文強勢(sentential stress)つまり焦点を表すイントネーションは置かれない。この際、文強勢が置かれるのは主題を説明する他の成分(述語)である(蔡琬(1976)を参照)。

(4) 영수는 학생'이다. (´は強勢)
 yengswu-nun haksayng'-ita.
 ヨンス-は 学生'-である

例(4)が意味することは「ヨンスの話をすれば、彼は学生である」ということであり、ヨンス以外の人々が学生であるかどうかは問題になっていない。これらの特徴は日本語の主題マーカーの特徴と同様である。

5) 「은/는(un/nun)」が付いた体言が主題を示さない場合は対照を表す。つまり「은/는(un/nun)」が付いた体言が文中に位置する場合などである。また「은/는(un/nun)」が付いた体言が文頭に置かれた場合でも強勢を伴う場合は(明示的もしくは暗示的に)他の体言との対照を示す。

(5) 영수'는 학생이다. (´は強勢)
 yengswu'-nun haksayng-ita.
 ヨンス'-は 学生-である

例(5)が意味することは「(例えばジスは学生ではないが) ヨンスは学生である」ということであり、ヨンス以外の人々が学生ではない事実が問題になってくる。この点も日本語と同様

である。

- 6) 朝鮮語の主題は節とゆるい関係を持ち、節の外側にある。つまり文中の特定の要素と関係を持つのではなく、節の他の要素全体と関係を持つ。また朝鮮語の主題とそれに続く他の成分との間には軽い休止(pause)が介入することも許容される(蔡琬(1976)を参照)。また以下の例(6)のように従属節を、主題と他の成分との間に挿入することも可能である。

- (6) a. ?*내가 해가 들면 화분을 창가에 내 놓는다.
nay-ka hay-ka tul-myen hwapwun-ul changka-ey nay noh-nun-ta.
私-が 日差し-が 射せ-ば 植木鉢-を 窓際-に 出して 置く
- b. 나는 해가 들면 화분을 창가에 내 놓는다.
na-nun hay-ka tul-myen hwapwun-ul changka-ey nay noh-nun-ta.
私-は 日差し-が 射せ-ば 植木鉢-を 窓際-に 出して 置く
- (蔡琬 1976、日本語のグロスは筆者による)

例(6a)のように主語の「내가(nay-ka, 私-が)」と述語の間に下線部の節が挿入された場合、不自然である。一方、例(6b)のように主題マーカを伴った「나는(na-nun,私-は)」と述語の間に下線部の節が挿入されても自然である。この容認度の違いは主題マーカの後でのみ休止の介入が許容されることに起因する。主題マーカの後には休止が入ることができるという点は日本語と同様である。

- 7) 朝鮮語の主題になる一般名詞は定(definite)である。日本語と同じく朝鮮語においても主題になりやすいのは固有名詞、1人称と2人称の代名詞「나(na, ぼく・おれ), 우리(wuli, 私達) 저(ce, わたくし), 당신(tangsin, あなた), 자네(caney, 君), 너(ne, お前)」と「이(i, この), 그(ku, その), 저(ce, あの)」が付いた名詞等である(蔡琬(1976)を参照)。

- (7) *사람은 교사이다. (‘사람’が非限定的であるため非文である)

salam-un kyosa-ita.

人-は 教師-である

- (8) 영수는 교사이다.

yengswu-nun kyosa-ita.

ヨンス-は 教師-である

- (9) 이 사람은 교사이다.

i salam-un kyosa-ita.

この 人-は 教師-である

(10) 나는 교사이다.

na-nun kyosa-ita.

私-は 教師-である

8) 朝鮮語において不定の体言が主題になる時、その体言は総称(generic)名詞句であるべきである。これは日本語においても同様である。

(11) 사람은 포유동물이다.

salam-un phoyu-tongmwul-ita.

人-は 哺乳-動物-である

9) 朝鮮語において疑問詞の「누구(nwukwu, だれ), 무엇(mwues, 何), 어디(eti, どこ), 언제(encey, いつ)」は主題になれない。この特徴は日本語においても同様である。

(12) *누구는 책을 읽었다.

nwukwu-nun chayk-ul ilk-essta.

誰-は 本-を 読ん-だ

3. 朝鮮語と日本語の主題マーカ-の相違点

<疑問詞を述語に含む文の主語が直示空間に存在する場合その主語は主題になれるか否か>

1. 日本語は主題になることが可能であり「は」を使う。
2. 朝鮮語は主題マーカ-の「은/는(un/nun)」は使えず、「이/가(i/ka, が)」を使う。

(13) (雑貨店である物を指差しながら開口一番)

a. <日本語>これは (*これが) 何ですか。

b. <朝鮮語>이게³ (#이건) 뭐예요?

ikey (#iken) mwe-yeyyo?

これが(#これは) 何-ですか

(14) (病院で意識が戻った患者が開口一番)

a. <日本語>ここは (*ここが) どこですか。

b. <朝鮮語>여기가 (#여기는) 어디예요?

yeki-ka (#yeki-nun) eti-yeyyo?

ここ-が (#ここは) どこ-ですか

³ 이게(ikey)는 이것이(ikesi)の縮約形であり、両方とも日本語訳は「これが」である。

1) 油谷(2005): 日本語は「ここ、私」などは話し手と聞き手の間で既に了解事項になっているので初出扱いせず(旧情報であることを示す)「は」を用いる。しかし朝鮮語はそのような場合も初出扱いするので「이/가(i/ka, が)」を用いる。

2) 田窪(1990): 日本語は相手が当然知っているものと思われるもの、発話現場にあるものなどは先行文脈に導入されていなくても既出のものとして看做し「は」を用いる。しかし朝鮮語は実際に話題に登場したか、明白な前提知識になっているもののように、文脈上旧情報であることが明らかな場合にのみ「은/는(un/nun)」を用いる。

3) 本稿における追加考察

上記の例(13)と(14)で「이건 뭐예요? (iken mwe-yeyyo?これは何-ですか)」と「여기는 어디예요? yeki-nun eti-yeyyo?ここはどこ-ですか)は、使われる場面によっては容認度が上がる。例えば次の例(15)のように、先行文脈があってその文脈で先に現われた指示対象と対照させる場合なら「이건 뭐예요? 」と「여기는 어디예요?」は自然である。要するに、先行文脈がある場合は<対照の「은/는(un/nun)」>は出現可能である。

(15) (不動産業者がマンションの借り手にマンションの中を案内している)

- a. 여기가 거실입니다. 여기가 주방이구요.
yeki-ka kesil-ipnita. yeki-ka cwupang-ikwuyo.
ここ-が リビング-です ここ-が キッチン-です
- b. 네, 그렇군요. 여기'는 어디예요? (‘は強勢)
ney, kulehkwunyo. yoki'-nun eti-eyyo?
あ そうなんですね ここ'-は どこ-ですか

例(15)の「은/는(un/nun)」が付く体言に強勢が置かれて対照の意味を強調することも可能である。

4) 朝鮮語の疑問文では主語が話し手によく知られていない指示対象を指示する場合は先行文脈の有無にかかわらず「이/가(i/ka, が)」が使われる。一方、日本語においては発話現場にある対象は旧情報として看做し「は」を使う。詳しくは金善美(2007)を参照。

<参考文献>

- 남기심 (1996) 『국어 문법의 탐구I』, 대학사.
- 남윤진 (2005) ‘현대국어 조사 ‘은/는’의 분포와 기능’, 『우리말연구 서른아홉 마당』, 대학사.
- 서정수 (1996) 『국어 문법』, 한양대학교 출판원.
- 蔡琬 (1976/1983) ‘助詞 ‘는’의 意味’(助詞‘nun’の意味), 『國語學』4 (『국어의 통사·의미론』(고영근 남기심 공편, 1983, 탐출판사)에 재수록).
- 홍사만 (1995) 『한·일어 대조어학/논고』, 탐출판사.
- 井上優 (2004) 「「主題」の対照と日本語の「は」, 『主題の対照』, くろしお出版.
- 梅田博之 (1991) 『スタンダードハングル講座2 文法・語彙』, 大修館書店.
- 金善美 (2004) 『韓国語と日本語の指示詞の直示用法と非直示用法』, 京都大学大学院博士論文.
- 金善美 (2006) 『韓国語と日本語の指示詞の直示用法と非直示用法』, 風間書房.
- 金善美 (2007) 「hankwuke-wa ilpone-uy cwucey-lul nathanaynun phyoci-ey tayhaye- ‘un/nun’ kwa ‘wa’ uy yongpep-ul cwungsim-ulo-」(韓国語と日本語の主題を表すマーカーについて— ‘un/nun’ と ‘は’ の用法を中心に) 『2007年度韓国言語学会学術大会発表論文集』161-169, 韓国言語学会.
- 北原保雄 (1981) 『日本語の世界6 日本語の文法』, 中央公論社.
- 久野暉 (1973) 『日本文法研究』, 大修館書店.
- 田窪行則 (1987) 「誤用分析2 神戸大学がどこですか。田中さんが誰ですか。」, 『日本語学』5月号, 明治書院.
- 田窪行則 (1990) 「対話における知識管理について -対話モデルからみた日本語の特性-」『アジアの諸言語と一般言語学』, 三省堂.
- 南基心 (1988) 「二重主語構文再考」, 『朝鮮学報』第126輯, 朝鮮学会.
- 野田尚史 (1996) 『「は」と「が」』, くろしお出版.
- 益岡隆志 (2004) 「日本語の主題 —叙述の類型の観点から—」『主題の対照』, くろしお出版.
- 松下大三郎 (1928) 『改撰標準日本文法』, 紀元社.(勉誠社復刊 1974.)
- 三上章 (1970) 『文法小論集』, くろしお出版.
- 油谷幸利 (2005) 『日韓対照言語学入門』, 白帝社.